

川づくり 清瀬の会

会誌 第16号 2012年 1月発行

発行者 宮澤 とよ美 編集者 会誌編集委員会 連絡先 042-491-3616



完成した境橋とても頑丈な太鼓橋で歩道が大変広く眺めがいい
車の運転には要注意（清瀬市側が急カーブで対向車が見づらい）



流量が少ない空堀川で餌を捕る水鳥たち



全容が見えるようになった自然石を使った8段の落差工

目 次

みどりと調和する清瀬の暮らし（宮澤とよ美）	1
いい川づくりワークショップの発表会に参加して（木村芳信）	3
顕微鏡を使いこなしてプランクトン観察（宮澤とよ美）	4
柳瀬川源流ウォーキングに参加して（金内彰 大谷郁夫 大谷恒子）	6
きよせふれあいまつりに参加して（大谷恒子）	8
みんなで考えよう いい川づくりといい街づくり（大谷郁夫）	9
河川と自然シリーズ④ ワレモコウ（バラ科 ワレモコウ属）（田中くに子）	10
柳瀬川とはシリーズ④柳瀬川とは？ カワセミのはなし（船木淳）	11
川が好きになった、魚が好きになったキッカケ（大竹雅葵）	11
今年の柳瀬川（矢島清治）（増田国男）	14
雑学（田島通夫）	15
まちづくり（原 剛）	16
柳瀬川の清掃 12月4日（木村芳信）	17
2011年度 活動記録（9月～12月）	18
事務局だより	20
編集後記	20

パルシステム支援 特別講演会

水辺の自然を生かした川づくり
～誰もが親しめる河川を求めて～

日時 2012年1月28日(土)

午前10時～12時

会場 清瀬市中清戸地域市民センター2F会議室

清瀬駅北口より旭が丘団地行き又は志木駅南口行きの清瀬市役所から徒歩1分

講師：九州大学 大学院教授

島谷幸宏氏

みどりと調和する清瀬の暮らし

宮澤 とよ美

会員皆様 明けましておめでとうございます お健やかに新年をお迎えのこととお祝い申し上げます。

昨年は未曾有の東日本大震災や、絶望感に打ち震えた福島第1原発事故を経て、利便性より、日常何事も無く平穏な日々であることの幸せ、有難さを身にしみて考えさせられる年でした。昨12月16日、政府から原発事故「収束宣言」が出され新年を迎えました。ですがまた冬がめぐり被災地皆様の苦しみ、広範囲にわたる放射線による環境汚染等復興への困難さに思いを馳せます。一日でも早い平穏な生活を祈ります。

清瀬市にも、戦後急激な宅地開発による緑の減少、治水重視の河川改修による生態系の破壊、大量のごみ排出による猛毒ダイオキシン類の汚染他近年数々の負の遺産を共に抱えております。大気・土壌・水、地球規模の環境破壊はしばしば所を選ばず早魃やゲリラ豪雨など形を変えて襲います。「天災は忘れた頃に……」等と言ってはられません。先般私たちは新河岸川流域シンポで、防災研究家群馬大学教授の片田敏孝氏から、どんな場面でも「自分だけは大丈夫」という思いはまず捨て、自分の命は自分で守る(自助)、そしてお隣同士との助け合い(共助)、それから公共の助けを待つ(公助) と教えられました。

「安きに居りて危きを思う 思えばすなわち備えあり 備えあれば患いなし」他人事ではない災害時の心得を片田教授から学びました。安心して暮らせる街づくりに向けて、これ以上温暖化を進めないための市民の心配りが見られ、省エネに向かい多くの方が生活の見直しを始めています。

清瀬市は、一歩外に出れば河川や林床に可憐な花が一年を通して咲き、1輪の野の花に胸をときめかし、幸を感じます。そしてフードマイレージ、環境にやさしく、安心して食べることの出来る旬の野菜が農家さんの庭先でいつでも購入できます。そのためにも早く原発事故の確実な収束が待たれます。

偶さかの外出から清瀬に戻るといつもほっと致します。緑豊かな河川があり、そして農家の皆さんに守られてきた屋敷林と雑木林が清瀬の住環境を豊かなものにし、その中に暮らせる幸せを有難いと思います。

雑木林や屋敷林を維持するためには、秋の落ち葉はきから下草刈りまた剪定など、営々とその労力を重ねられての清瀬の緑です。私たちも自然保護団体として、年に数度体験することによりその大変さに気づきます。

平成23年度清瀬市みどりの基本計画が32年度を目標年度に改定されました。星野前市長は、改定に当たり、「清瀬のみどりは人々に潤いや安らぎをもたらすだけでなく、災害からまちを守り、地球温暖化の防止や生物多様性の保全にも大きく貢献し、次世代へ引き継ぐべき大変重要な財産である」策定の審議に先がけてのお言葉です。緑の重要性

を〈潤いと安らぎ・災害からの防災・温暖化抑制・生き物の多様性・次世代への重要な財産〉と位置づけておられます。果たしてその重要性を認識し、しっかりとした方向性とみどりを保全創出できる具体策が基本計画の中に盛り込まれたでしょうか。いつ来てもおかしくない震災のために緑地空間は重要な役割を果たします。東京都は、小児病院跡地を是非緑地として都民のために確保すべきだと思います。

当会は、昨年3回現渋谷市長と懇談の機会を得ました。これからの河川整備について話し合い、清瀬のみどりは、特別な行政課題（行政も積極的に取り組むと受け取りました）にもなっています。治水目的の改修であっても、その箇所での河川環境を最大限に生かした工事、改修後もみどりを創出できる設計・施工について渋谷市長とも合意形成がなされています。市長は合流点工事の天然護岸、河畔林保存のために、河川管理者及び地権者が違えばその先の自治体へ治水と自然環境共に両立した川づくりが出来ますよう働きかけをしてください。

今北多摩北部建設事務所工事第二課では、新合流点の工事を多自然川づくりの方向性でご苦勞を頂いています。近々水理実験・模型による具体的な構造が示されると思います。まだ管理用通路などいくつかの重要な課題も残りますが、余地への緑化も含め、関心を持って見つめてゆきましょう。

また、河川の景観・環境保全のためにも続けて河川管理者や関係団体と話し合いながら河川に沿い、清瀬の街づくりに合う植樹をしてゆきたいと思います。

昨秋、三郷橋近くの空地2箇所の地主さんをお願いに伺い、お化け山につながる三角地（都緑地A地区）と車道を挟んだ空堀川に沿う空地に植栽をした後、緑地とするお許しを頂きました。中里緑地は希少種の野草が豊かなところ、河川環境の質を上げ、清瀬市の緑被率の減少の



境橋の完成(歩道清瀬側から)



工夫が必要な現落差工

歯止め
に繋が

れば良いと思います。継続したみどりは生き物をも豊かにします。

平成23年2月中旬に着工した新柳瀬川境橋架け替え工事も12月には完成。仮橋も撤収され歩道の上流側中央にテラスを持つ境橋が現れました。橋の右岸は清瀬市、左岸は所沢市どちらも取り付け道路が低く、必然的に橋は中央が高い太鼓橋風です。橋に沿う2つの仮橋も、すでに撤

去され護岸工事が行われています。

旧柳瀬川となる合流点1m強の階段状現落差工も、24年度には生き物が遡上できるよう工夫された落差工が施工される予定です。

11月下旬境橋の完成と共に、雨量50mm/h対応のために“新柳瀬川”の河床が掘下げられ、昨年3月に完成された落差工が全容を表しました。空堀川上流に魚が遡上しても生きていけるよう空堀川の水量確保は大きな課題です。清瀬橋付近の整備はまだまだ続きます。より良い河川環境を目指して、今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

いい川づくりワークショップの発表会に参加して

第4回 いい川・いい川づくりワークショップ(2011.9.24-25)

木村 芳信

いい川づくりワークショップの発表会に参加して、まず感じたことは全国でこんなに川のために精力的に活動しているグループが有ることでした。私は団塊の世代であり地域との関わりも今まで疎遠でした。関わるきっかけは、カタクリまつりで愛犬のよしちゃんとの散歩で宮澤会長との出会いでした。何かしようかなと思っていたときだったので、あまり考えず当会に入りました。それから少しずつ地域の状況が分かってきたときに会長より急に、「いい川づくりワークショップの発表会」に出ない？との話があり発表までに2ヶ月も無く急拠発表原稿を作ることになり、河畔林と落差工を取り上げることになりました。掲示物とスライドの作成を担当することになりました。

境橋の上流の落差工を取り上げると言われても??でした。

こんな状況で発表資料が出来上がるか不安がよぎりました。皆さんの協力でスライドとポスターはなんとか出来ました。発表練習が1回しか取れませんでした。後は発表会当日代々木の会場の外での練習では時間内に収まったが全体発表では、上がってしまって少し時間がたりなかつた。



全体発表会

発表は午前中に 38 団体全てで行われました。当会に類似した発表は無かったが、壊した自然を取り戻す活動が私には新鮮に感じ、柳瀬川の河畔林は絶対守らなければ将来に悔いを残すと強く感じました。また福島原発事故で川に近づけない（放射能が高く）との発表があり、長年川にたずさわってきたのに、川にも近寄れない惨状を聞き大変悲しくなり

これが何時まで続くのか。2次選考は、各グループ(6グループ)に分かれ行われました。会長の巧みな話術で当会は、何とか2次選考に残りました。(拍手) この後選考はチッと悔しいので今回は割愛します(入選にはなりません)。来年こそ“河畔林を守ったぞ”でいい発表が出来る様みんなで力を併せてがんばって行きたい。来年は河畔林でいい結果をだし大勢で参加しませんか。(北多摩北部建設事務所さん一緒に出ませんか)



二次選考会の様子

顕微鏡を使いこなしてプランクトン観察

(10月5日 パルシステム支援講座)

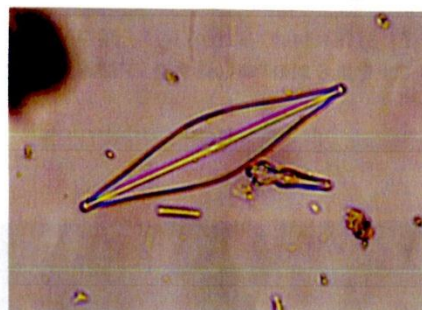
宮澤とよ美

「プランクトン」とは、水の流に漂う浮遊生物のことです。自身では泳ぐことが出来ないか、又は水中を移動する力が微少なものです。プランクトンの最小種はシアノバクテリア類、最大種は淡水・海水の両方に棲むクラゲです。大きいものはエチゼンクラゲのように 150kg 以上にもなるものが海中を漂います。と、本日の講師：プランクトンウォッチャー小田部家邦氏のお話は始まりました。

水の流に身を任す無数の小さなプランクトンは、水中の生態系を構成する食物連鎖の最下位にあつて、小さな魚類からクジラまで、生き物の生命を支える生産者(餌)として重要な役割を担っています。

要するに、柳瀬川・空堀川の流の中にも、小さな水生昆虫や魚類の餌となる肉眼では見ることのできない微生物が無数に存在しています。これら動物性プランクトン・植物性プランクトンがどんな形をし、生活をしているのか見極めようとするれば、顕微鏡を使わなくては叶いません。

環境学習時や市の行事の都度、この肉眼で見ることのできない小さな生命を見て頂こうと、倍率の大きい顕微鏡3台と、社協からご援助頂いた20~40倍顕微鏡2台を持ち出します。



ケイソウ類 Frustulia SP. (rhomboides?)
ワカサギの仲間。比較的多く、見付けやすい種類。



ミジンコ類のモンシカクミジンコ *Alona guttata*
公園の池、川によく見られる小型のミジンコで、背の上から
見ると痩せたスタイルです。小魚のエサとして良好です。

ところが水中を浮遊するプランクトンを採集するのもなかなか難しく、採集のための専用ネットがあればよいのですが、観察の都度苦慮をします。

清瀬の水再生センターの汚水浄化も、固形物沈殿層を経た後プランクトン（微生物）処理層にてより浄化され、塩素殺菌をして柳瀬川に放流されますが、水質浄化のためにも大きくプランクトンが役立っています。時々私たちはこの施設のプランクトンを頂いてミジンコ類やラップムシなど顕微鏡観察に使わせていただき、子供たちに喜ばれます。

今回は、会員皆様に気軽に顕微鏡を覗いていただき、まず見ることの出来ない無数の命の存在を感じ、その生態や形の面白さに気づいていただくための勉強会です。

講師小田部家邦氏は次々と金山緑地公園の池に棲むプランクトンから、河川や沼そして庭のバケツに数週間汲み置いた水にわくプランクトンを拡大画像に映し出し、説明をしてくださいます。

次に講師持参のプランクトンや朝空堀川から採取したプランクトンを顕微鏡調整しながら 150 倍で観察をしました。しばしプランクトンの動作（動き）の面白さに驚かされながら、見過ごされがちな小さな生き物たちの存在を確かめました。

数多くあるプランクトンの仲間の中から、原生動物では最も種類が多いといわれるゾウリムシ類、ツリガネムシ類、ラップムシ類、ワムシ類、割と大型のミジンコ類、クマムシ類を。また、植物プランクトンでは、イカダモ類、ミカヅキモ類、クチビルケイソウ類、フナガタケイソウ類を顕微鏡の中に見ることが出来ました。

プランクトンの種類と数は、季節や採水場所によって違いがあることや、淡水プランクトンは水の中だけではなく、雑木林の落ち葉の中、畑の表土、古い屋根のトイ……など、どこにも生息し、乾燥状態（休眠状態）になると、風に乗って世界中どこにでも移動すること等、プランクトンの生活の面白さも語って頂きました。

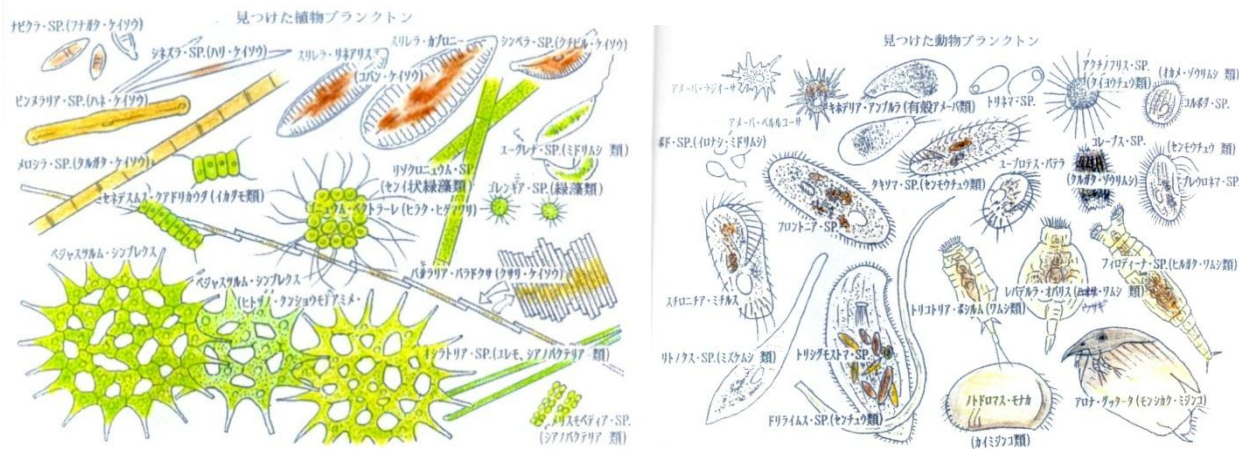
そして講師は元、警視庁科学捜査官、顕微鏡を使っの犯罪捜査のあれこれ、お茶を頂きながら興味尽きないお話に花が咲きました。

講師小田部氏には以前から環境学習時、川まつり時にご協力をいただき、重い顕微鏡を



背負いご参加を頂いています。この度パルシステム東京からのご支援により、講師としてお迎えし、ご指導いただきましたこと御礼を申し上げます。

これからは、会員皆様が気軽に顕微鏡を活用し、楽しみながら河川の自然観察が進められたらと思います。



柳瀬川源流リバーサイドウォーキングに参加して

金内 彰

数日前の天気予報では雨模様だったが、10月14日(金)当日は上々晴れとなった。午前10時、西武球場駅には6人の会員が集合し、地質学の権威である小黒義司先生の説明で「柳瀬川源流リバーサイドウォーキング」が始まりました。柳瀬川の源流は、昭和9年に完成された狭山湖(山口貯水池)であります。東京都民の飲料水を確保するために、東京水道局が所沢市山口に堰堤を作り、多摩川から導水して貯水したものが、狭山湖(山口貯水池)だそうです。



(柳瀬川源流起点道標)

その狭山湖に向かってウォーキングが開始されました。柳瀬川の最上流付近である「大鐘橋」の上流は東京都側で、下流は埼玉県側であった。大鐘橋の上流(東京都側)は渇水状態なのに下流(埼玉県側)にはきれいな湧水が流れていた。小黒先生の説明では、狭山湖

からの放水は殆どなく、埼玉県は、大鐘橋下流 240 区間を魚類生息可能な多自然河道として整備するために湧水を柳瀬川に放水しているのだそうです。「山口貯水池からの放流が少しでもあれば助かるのだが」は、小黒先生のご意見でした。

隣接にある、通称雑魚入り湿地と呼ばれる地域も案内していただいた。トトロ財団が買収して「トトロの森1号」となった場所である。雑魚入り湿地は自然環境豊かな地域が保全されて、ヘビトンボやプラナリヤやトンボのヤゴが採取されているそうです。自然の宝庫「トトロの森1号」での昼食、最高に幸せな気分で「おにぎり」を頂戴いたしました。

整備された傾斜地を昇って行くといよいよ狭山湖。と満水の水を蓄えた山口貯水池があった。そこには石原慎太郎東京都知事直筆の石碑があった。

「五風十雨の味わい」 石原慎太郎

五日に一度風が吹き、十日に一度雨が降る。これが平穏な生活に欠かせない、と解説してあった。なるほど、平穏な生活を望みたいものです。「柳瀬川のために多少なりとも放水をお願いしたい」と願ったのは自分だけだったでしょうか。

「柳瀬川源流リバーサイドウォーキング」が午後3時に無事終了しました。参加者全員、ほのかな疲労と満足一杯の表情でした。小黒譲司先生には感謝の気持ち一杯でお礼を申し上げます。

この企画は今後も続けます。次の柳瀬川のポイントはどこか、ご期待ください。そして、ぜひとも皆さまの参加をお願いいたします。



大谷 郁夫

5月に計画を立て、雨天等により延期となっていた柳瀬川源流の散策が約半年ぶりに実現した。ふたを開けてみると当日の参加はたったの6人！（そのうち幹事5名）しかしながら、地元の所沢源流の会・小黒様は、我々を暖かく迎えてくれました。

小黒様の方で準備いただいた資料をもとに、散策しながら説明を受け、柳瀬川の源流の原風景を満喫し、とても楽しい1日となりました。ありがとうございました。



大谷 恒子

西武球場前駅に集合して、地元の小黑さんに資料とご説明いただき、ご案内をしていただきました。柳瀬川の源流があんな小さな流れから始まっているのには驚かされ、清瀬の空堀川と比較して、より自然に富んだ豊かな環境が今も周辺に残っていると感心しました。



きよせふれあいまつりに参加して

大谷 恒子

10月22日（土）ひまわりプラザで、きよせふれあいまつりが開催されました。

今年は2回目で、福祉、自然環境、街づくり等の関係 58 団体が参加して、とてもにぎやかでした。川づくり・清瀬の会は矢島・増田両会員に投網で柳瀬川の魚を沢山捕っていたいただき（大きな鯉一匹も含めて）水槽で展示し、新合流点のパネルも展示しました。



また、お客さんに配布した金内さん手作りの楊枝入れも好評でした。当会の展示スペースは正面入り口から入ってすぐのところにあつたため、訪れたほとんどの方々が当会水槽を含む展示物を興味をもって見ていただき、特に親子づれの方は水槽の魚を熱心に見ておられました。柳瀬川に沢山の魚がいることをまだよく知らない人も多いのにちよっと驚きました。途中から雨が降り出し、天候には恵まれませんでしたが、その割にはまあまあの人出だったように思います。前日の準備と当日の後片付けは参加できなかったのですが、聞くところによると、大変だったようで、参加する時は事前、事後の作業も考慮した上で参加の是非を決めなくてはいけないと良く理解できました。

前日の準備と当日の後片付けは参加できなかったのですが、聞くところによると、大変だったようで、参加する時は事前、事後の作業も考慮した上で参加の是非を決めなくてはいけないと良く理解できました。

みんなで考えよう いい川づくりといい街づくり

大谷 郁夫

NPO法人 空堀川に清流を取り戻す会主催の講演会が11月26日(土)に東村山市民センター会議室で開催された。本講演会は、第6期柳瀬川、空堀川流域連絡会(北北建)で進められている四市の情報交流会の成果の一環として開催されたものである。

当日は、四市でそれぞれ進められている「パネル展示での活動紹介」及び“みんなで考えよう いい川づく



東村山市長 渡部 尚氏 挨拶

りといい街づくり”をメインテーマに下記の講演が行われた。

- ◇「河川行政と空堀川について」西村氏(北多摩北部建設事務所・工事二課長)
 - *流域連絡会における四市の活動状況(過去の改修状況を含む)について
- ◇「街づくりからみた川づくりについて」伊藤氏(プランニングネットワーク)
 - *行政計画と市民の街づくりの関係(1級河川の川づくり事例を含む)について
- ◇「いい川づくり 柳瀬川、空堀川を地域の財産に」吉村氏((株)吉村伸一流域計画室)
 - *川の空間を豊かにする空間デザイン(例:河畔林)について

引き続き、3人の講演内容に対する質疑応答が行われた。また、講演会終了後、別席において、講師並びに関係者による懇親会を開催し、親睦を図った。



自然が残る柳瀬川

河川と自然シリーズ④

ワレモコウ（バラ科）ワレモコウ属

田中 くに子

春、柳瀬川の堤防を歩いていると、このワレモコウ（吾木香）の若葉を見付ける事が出来ます。

この花は、日当たりの良い山野の草地に生える多年草。

茎は 70～100 cm 位、葉は 5～13 個の小葉からなる奇数羽状複葉、小葉は長楕円形で縁にはあらい鋸羽があります。小葉の柄（え）のつけ根にも小さな葉片がつきます。

花は枝先に円形の固まりとなり、暗赤紫色で円頭状の直立した花穂をつけ、(1～2 cm) 花弁はなく 4 裂したがくは、開花中白く、その後暗赤紫色となります。おしべ 4 個は黒い葯をもつ花は上から下へ咲き進み、ルーペで拡大して見ると小花の集まりである事が良く分かります。



8 月には東京都が、柳瀬川の土手の草刈りをするので残して欲しい他の植物と共に標づけをして保護しています。

60～80 cm に伸び花穂をつけたワレモコウが目立つのか油虫が良くつき、完全な姿の花はなかなか見られません。

下宿のビオトープ公園の中では、3～4 株完全な姿で見ることが出来ました。中でもススキの間から頭を出しているのはなかなか風情があります。お月見の頃、誰かその中の 2 本とススキを切って持ち帰られた気持ちは良く分かります。

花屋さんの店頭でも見られますが、私も昨年帰省の折、田園の土手の草刈りをしているおじさんがいて、ワレモコウが沢山刈られていたので分けてもらって喜んで帰って来たことを思い出しました。

清瀬市内にはまだ他にもあるようだが目にした事はありません。

柳瀬川とはシリーズ④

柳瀬川とは？ カワセミのはなし

船木 淳

今回は趣向を変え、柳瀬川の象徴ともいえる、カワセミのことを書きたいと思います。金山調節池を中心に、いまや上流域の高橋（所沢市上山口）付近や、共開橋（所沢市久米）付近でも、その姿が確認できるようになりました。

そもそも、柳瀬川にカワセミがやってきたのは、いつ頃のことだったのか。少なくとも 70 年代 80 年代の前半、川が汚れていた時代には、見かけることはなかったのです。となると、やはり柳瀬川が再生され、多数の魚が戻ってきた 90 年代後半くらいからと推察されます。



春先の繁殖期は、オスがメスに「求愛給餌」する姿が見られ、秋は色鮮やかなピラカンサとカワセミのコラボが楽しめるため、全国から大勢のカメラマンが柳瀬川を訪れるようになりました。

ぜひマナーを守り、これからも柳瀬川のカワセミを温かく見守ってもらえたらうれしく思います。

川が好きになった、魚が好きになったキッカケ

大竹 雅葵

僕は東久留米下里中学校 2 年生です。

「川が好きになった、魚が好きになったキッカケ」は僕のおやじです。

おやじは、川や海が大好きで毎日のように川に行って魚やカニなどの生き物をつかまえて遊んでいました。僕は物心のつく前から川につれて行かれました。最初は、ただおやじに魚を捕ってもらっただけでしたが、知らぬ間に自分も川の中に入り、魚やカニを捕まえるようになりました。

小学 1 年生の時、おやじと東久留米に流れる黒目川に遊びに行きました。その時、はじめてカメを捕まえました。はじめて自分の力で捕まえたということもあって、

すごくうれしかったのですが、それから黒目川に遊びに行くたびにカメを捕まえられるようになりました。カメ捕りをマスターしました。

そして小学4年生の頃、柳瀬川ではじめて鯰（なまず）を捕まえました。60cmもある大物の鯰でした。

小学5～6年生の頃、おやじと弟と僕で茨城県の某川でモズクガニをバケツがいっぱいになるほど捕まえました。バケツがいっぱいになるほどカニを捕ると、カニ捕りをマスターしてしまい、柳瀬川でも一日で多くて6ハイ、最低でも1パイは捕ることができるようになりました。

自分の頭の中に柳瀬川のイメージをつくり、どんなところに何がいて、どんな巣をつくるのかを思いうかべます。そうすると、その条件に適した場所にその生き物いたりして、なかなか面白かったりします。

また、雨天や増水時は、特に鯰などの普段あまりお目にかかれない魚が捕れたりして面白いです。

そして自分は、柳瀬川のすべての魚を捕まえたいと思っているし、まだ捕まえたことがない魚を捕まえることを思うと楽しくてたまりません。今年になってマスターしたのが、柳瀬川での手長エビ捕りです。3～9月にかけて釣りを楽しむことができる手長エビですが、今年は柳瀬川で一番多くひそんでいる場所を見つけることができました。手長エビだけでなく、他の魚類や甲殻類などのすみかを見つけるとこの先、有効に川を保護できると思います。

変えた方がいい環境と変えない方がいい環境をもっと築いていけたらと思います。

柳瀬川で確認できる魚類、甲殻類

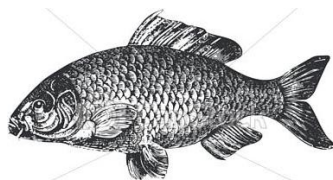
オイカワ・カワムツ 毎年大きな群をつくっている。柳瀬川では、釣り人がよく楽しんでいる。特に冬の季節。



アユ ヨ 年によって減ったり増えたりしている。柳瀬川では、「アユの友」ではなく、オランダ釣りをしている人が多い



コイ・ニゴイ・フナ すこし数が多すぎて川に良くないがする。雑食性のため、魚を食べることもある。



モツゴ等のモロコ類 ときどきその姿をみせる。けっこういっぱいいる。



ド ジ ヨ ウ 沼地を好むドジョウに柳瀬川はふさわしくないが、いないわけ
でわない。



カ マ ツ カ 「清流のドジョウ」みたいなものだと思っている。きれいな川
にいるイメージがある。ときどき姿をみせる。



ナ マ ズ たくさんいる。なかなかナマズを見ることができないと思っ
ている人が多いが、以外に簡単にお目にかかれる。



生物の中で、僕が一番好きなのはタコで、二番目がナマズであ
る。

ギ バ チ 年々増えてきている気がする。このまま増え続ければなによ
りだ。



ウ ナ ギ 2011年は特に多かった。川に巣をつくってくらしていた。
30cmから80cm級のものを見ることができた。



ワカシ (スズキのこども) 2011年にはじめて確認できた。これからを期待したい。

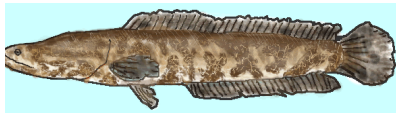


モ ク ズ カ ニ 年々増えてきている。このまま多くなることを期待したい。



外来種

カムルチー 柳瀬川で一回だけ見たことがある。



外来種ではあるが川に悪影響はないと思う。

ブラックバス・スモールマウスバス・ブルーギル



減ってきている。この魚たちはなるべくいない方がいいと思う。

タイリクバラタナゴ 外来種だが悪影響はない。



アメリカガニ すくないのでいいと思う。



アメリカザリガニ

今年の柳瀬川

矢島 清治
増田 国男

櫻の花の咲く頃、柳瀬川に丸太鮠（はや）が産卵に上がってきます。

何時もの年より今年は10日くらい早かったみたいです。

鮠の卵は鯉に食べられてしまいます。



鯉を少なくするにはどうしたら良いでしょう？

鮎の上がってくるのは、櫻の花の咲く頃です。

今年は何時もの年より少なかったらしい……。

自然護岸が残る台田団地前

鮎は9月中頃に下り始めます。

今年11月になっても鮎を見かけたらしい……。

下るのが遅かったみたいです。

柳瀬川の河川ビオトープの周りに茅や雑草が残されています。

雉や小鳥の埒（ねぐら）になっています。

河川の雑草は残して欲しい。

雑学

田島 通夫

明けましておめでとうございます。

今年一年、何をやろうかと計画は立ちましたか。

元気で明るく、そして楽しく過ごしたいものですネ。

ところで、この会誌も16号となりました。川の話ばかりで肩が凝ったでしょう。

ここで一休み、雑学で肩の力を抜いて下さい。

初夢を見ましたか？

初夢とは何でしょう。

元日の夜に見る夢。又は正月2日の夜に見る夢。(広辞苑より)

どちらでもいいようです。

初夢で見るとおめでたいと言われているのが、あの有名な「一富士、二鷹、三茄子」ですネ。

夢に見るめでたい物の順序と言われています。徳川家康の好きな物の順序で、美しい富士山、鷹狩りが大好きで、駿河特産のオリトナス（丸ナス）が大好物だったそうです。

また一説には、駿河の国で高い物。富士山（3,776^尺）……これは高い、そして美しい。

愛鷹山（アシタカヤマ）（1,054^尺）……普通の高さの山ですよネ。駿河には他に高い山がないのかな～。他に何かあるのかな～。

茄子……値が高いのかな～。

これには、いろいろな説があり、どれが本当かわかりません。

これは雑学ですから、これ以上追究するのはやめておきましょう。

ついでに、初夢漬けてご存知ですか。初夢と言う言葉と漬け物と言う言葉で連想され



る物は茄子の漬け物しかありませんよネ。甘塩に漬けた小茄子を芥子(カラシ)と麴(コウジ)とに漬けた物。また、茄子の砂糖漬けです。

最後に茄子に関連した身近な雑学。茄子の原産地はインドです。この字を見ると絶対中国経由ですよネ。奈良時代頃に大和に渡来したらしい。形は大きい小さいの、長い短いや丸型等いろいろある。色は、茄子紺として有名ですが、紫あり緑あり白もある。仲間として、トマト(赤茄子)(南米原産)、唐辛子(ピーマン、パプリカ含む)(南米原産)。ジャガ芋(南米原産)。タバコ(南米原産)など。

家庭菜園をやっている方はよく知っている事ですが、ナス科の植物は極端に連作を嫌います。

ジャガ芋の跡に茄子もトマトも唐辛子も3~4年間は作ってはダメ。連作障害を起こします。

同じように茄子の跡にジャガ芋、トマトなども同様です。

ただ、接木苗を植えれば連作障害は防げるようです。

以上で、第1回雑学は終わります。この件で他にご存知のこと、この内容が間違っている事がありましたら、この会報に投稿下さるか何らかの方法で教えて下さい。

まちづくり

原 剛

半世紀ほど前に、「日本の駅や街路は、世界の大都市のなかで、塵芥が最も少なくて清潔だ。これはもっぱら国民性に由来するのだろう」という感想を聞いた人が、国民性もさることながら、日本では駅や街路の掃除をする人を他の国々より多く雇っていることも忘れてはならない、と言った。雇い主は公共機関だ。あのころはそういうことが言えたかもしれない。しかし現在はどうだろう。そういうことをする財政的ゆとりが、日本では他国より断然大きいとは思えない。しかし日本の街路や駅頭は依然として外国の大都市よりきれいだ。やはり国民性のなせる仕業なのだろうか。

雑木林を散歩すると、時々、色々なゴミがまとめてゴソッと捨てられているのに遭遇する。そのたびに、このようなことをする人は、おそらく清瀬の住人ではないのだろうと思う。それは、清瀬に住んで清瀬の自然を愛する人ならば決してできないことだからだ。

近代以前の町や農村の地域共同体に住む人々は、自分たちで出来る環境の整備や日常生活の防衛を自分達で行った。殆どの人が、毎日、終日、地域に根差して生活していたから、それが可能だった。道の普請や相互扶助も生活の一部だった。100年前の農村では、老人の孤独死などあり得なかったであろう。

近代化した都市では、多くの人々が自分の住む町から離れた所で働いて収入を得るから、地域のために奉仕することができない。そこで地方税という形で資金を提供して環境の整備を公共団体の行政にゆだねることになる。市町村はその税金で職員を雇い環境の整備を

行う。環境の整備だけではない。近代化した社会の需要は複雑多岐である。殆どの地方政府が、地方税の税込だけでは基本的な財政需要を満たすことができない。足りない分を国から回される地方交付税で賄うが、これは必要不可欠な事業のための資金として使われる。

地方所得税の税率は全国一律で、住民の所得の 10%である。ところが各共同体の地方税の人口一人当たりの税収は大きく異なっている。それが異なる理由は、所得税と固定資産税と法人税の収入額が大きく違うことにある。清瀬市の一人当たりの地方税収は、多摩 26 市の中で最も少ない。

言い換えれば、清瀬市の住民は、基本的で不可欠な行政サービスのほか行政から受けられるサービスが、多摩 26 市の中で最も少ないことになる。しかし清瀬は近隣市に比べて劣らない、いなより住み心地よい環境を保っているとの評判である。それが保たれているのは、市長や市職員の努力によるばかりではない。環境に関わる市民活動の貢献が大きい。さまざまな活動が、多くのボランティア団体によって遂行されている。



自然が残る柳瀬川の河畔林

その活動のなかで、川づくり・清瀬の会の活動はユニークで、最も重要な活動の一端を担っていると言っても過言ではないだろう。現在この活動は会長を始め数名の中心的な会員の献身的な活動によって推進されている。ニューフェイスの活動への参加が望まれることしきりである。

柳瀬川の清掃 12月4日

木村 芳信

9月の市一斉清掃が天候が悪く中止になった為のびのびになった台田団地前の清掃を寒い中行いました。釣り人、有志の方の協力もあり短時間で終わらせることが出来ました。ビニール等のゴミが多くありました。川にごみを捨てるのはやめましょう。ご協力ありがとうございました。



ゴミの撤去作業



清掃後生態調査を行いました

2011年度 活動記録（9月～12月）

- 9月 1日（木）第5回幹事会（ワークショップへの対応、会誌編集等）参加10名
- 9月 2日（金）講演会4市（11/26）打合せ*宮澤、加瀬、戸塚、大谷（恒）
- 9月 6日（火）第5回柳瀬川・空堀川流域連絡会・現地調査（新合流点）参加29名
- 9月 8日（木）編集委員会（会誌・第15号掲載内容）参加6名
- 9月 9日（金）定点生き物調査（魚類調査、杭のゴミ回収）柳瀬川・台田運動公園
*参加：矢島、増田、朝日、湯浅、宮原、木村、主要幹事 計17名
- 9月12日（月）北多摩のまち環境連絡会・柳瀬川回廊散策の下見 *宮澤
- 9月13日（火）新河岸川流域連絡会（朝霞） 宮澤、加瀬、大谷（恒）
- 9月18日（日）いい川ワークショップ参加準備（活動センター）大竹君ほか7名
- 9月24日（土）～25日（日）いい川づくりワークショップ（国立オリンピック記念
青少年総合センター）◇全体発表会、◇テーブル選考、◇最終選考
◇発表者 宮澤、田中、加瀬、金内、木村、大谷、大竹君（下里中）
◎北海道から沖縄まで全国から38団体が参加し、2日間にわたる発表が行われた結果、
上位入賞はなりませんでした、入選を果たしました。
- 9月27日（火）北多摩のまち環境連絡会（会員27名）柳瀬川、水再生センター見学案内*田中、宮澤、
大谷（恒）
- 9月28日（水）編集委員会（会誌・第15号掲載内容の点検）参加4名
- 9月29日（木）会誌・第15号印刷・発行 参加6名
◇木村会員のご協力により内容のあるすばらしい会誌が出来上がりました。
- 10月 1日（土）佐々木裕子講演会（ダイオキシン主催）*参加9名
- 10月 3日（月）パルシステム支援金・伝達式への準備 *木村、宮澤
- 10月 5日（水）プランクトン観察会（小田部講師：元警視庁科学捜査官、現、六都科学館講師）*プラ
ンクトンの生態、プランクトンにまつわるエピソードほか
*参加10名
- 10月 6日（木）第6回幹事会（会誌・第16号掲載内容、報告事項）参加10名
- 10月 7日（金）パルシステム助成基金・伝達式（宮澤、木村、大谷）
- 10月 9日（日）～12日（水）セイバンモロコシ除去（柳原橋～薬師橋間）
*参加6名（黒田課長、田中（正）、原剛、加瀬、宮澤、大谷（恒）、
- 10月14日（金）柳瀬川の源流・リバーサイドウォーキング 参加6名
*所沢源流の会・小黑様のお世話により散策会を実施。
- 10月16日（日）市民まつり *大谷、加瀬、宮澤
- 10月22日（土）きよせふれあいまつり（コミュニティープラザ・1階ロビー）
*パネル・魚の展示 参加7名

- 10月28日(金) 野塩崖線笹刈り作業 参加 宮澤、大谷(恒)、市役所6名
- 10月30日(日) 活動センターバザー手伝い *大谷(恒)、宮澤、加瀬
- 11月3日(木) 第7回幹事会(ホームページ開設、第16号掲載内容ほか) 参加9名
- 11月5日(土) 新河岸川流域懇談会(北朝霞) 宮澤、田中、加瀬、大谷(恒)、
*終了後、埼玉県土・大山部長、石川課長と懇談
- 11月6日(日) 芋煮会(木村宅) 平田、大竹、金内、田島、加瀬、大谷、宮澤、木
[市内一斉清掃が雨天中止] 村
- 11月8日(火) パルシステム東京・「団体訪問(小山、佐藤、松本)」 宮澤、田島、加瀬、
田中、木村、金内、原剛、大谷(郁、恒)
(夕方) 新河岸流域川づくり連絡会: 国交省(北朝霞) 宮澤、加瀬、大谷
- 11月9日(水) 第6回柳瀬川・空堀川流域連絡会(樹木管理ルール、御成橋周辺整備計画
(仮称)等)
- 11月14日(月) 11/26講演会段取り打合せ(せせらぎ管理棟) *木村、大谷(恒)、宮澤
- 11月16日(水) 第14回河川生態学術研究発表会(虎の門: 発明会館)
参加 宮澤、加瀬、大谷(恒)
- 11月26日(土) 「講演会」いい川づくりといい街づくり(東村山市民センター)
◇後援: 武蔵村山市、東大和市、東村山市、清瀬市
*会としてポスター、柳瀬川の魚展示 参加 宮澤、加瀬、田中、木村、
金内、大江、原剛、大谷(郁、恒)、
- 11月26日(土)~27日(日) 「市民活動展示と発表会」(市民活動センター)
*会としてポスター、柳瀬川の魚展示 参加 田島、加瀬、矢島、増田、
木村、大栗、大谷、宮澤
- 11月29日(火) 活動センター「物置の整理・清掃」参加 宮澤、加瀬、田中、木村、
金内、田島、大谷(恒)(以上7名)
- 12月1日(木) 第8回幹事会(会誌第16号掲載内容、講演会の実施、報告事項)
参加 木村会員を含む9名
- 12月4日(日) 柳瀬川の清掃(魚類調査) 参加 宮澤、田島、加瀬、田中、木村、
朝日、戸塚、大谷(恒)、大竹、福田、釣り人、吉田、大室
- 12月4日(日) ワンドへ柳の植栽(25本) *大竹、今泉、宮澤、加瀬、大谷(恒)
- 12月7日(水) 柳瀬川流域ネットワーク役員改選と今後の活動予定 *宮澤、加瀬
- 12月13日(火) 市の広報とパルシステム広報(島谷先生講演会)の掲載依頼原稿の送付
- 12月16日(金) 24年度 第1回環境フェア実行委員会 *宮澤
- 12月17日(土) 歳末助け合い募金活動(社協への協力) *秋津駅前: 大谷(恒)
*清瀬駅前: 金内、加瀬
- 12月18日(日) 島谷氏講演会チラシの作成 *木村、宮澤、大谷(2)

12月23日(金) バザー(社協への協力) *田島、木村、大谷(恒)、加瀬、宮澤

12月25日(日) 編集委員会及び新年会・島谷氏講演会チラシの印刷

*木村、田島、宮澤、加瀬、大谷(2)

📧 事務局だより 📧

■ ホームページを開設しました。(平成23年10月15日)

*会の活動内容がひと目でわかります。

*会誌(第15号以降)内容をご覧いただけます。(PDF化)

*会に対するご意見等がある方は、ホームページを通じ、事務局宛お寄せ下さい。

■ 平成23年度「寄付金」及び「寄贈品」について

*下記の方から寄付金を頂戴致しました。ありがとうございました。
佐藤陽子様、湯浅恒一様、S.T様(以上3名)

*下記の方から寄贈品を頂戴致しました。ありがとうございました。
山野様:水槽1基

■ 新会員紹介

小西一午様(中里2丁目在住)

どうぞよろしくお願ひ致します。

◇ 行事予定のお知らせ

河川清掃

日時 2月25日(土) 午前9時30分より

場所 梅坂橋

持ち物他 お椀、箸 軍手、防寒対策(カイロ他)

編集後記

前号より間がなく発行するため原稿の締め切りに間に合わない方おられます。編集に支障をきたしますので、次号は守って下さい。寒さがこたえます。風邪など引かない様健康に注意して春を待ちましょう。



川づくり・清瀬の会 事務局 大谷方

〒204-0003

東京都清瀬市野塩1-156-5 401

電話番号 042-495-9052 e-mail i-otani@live.jp